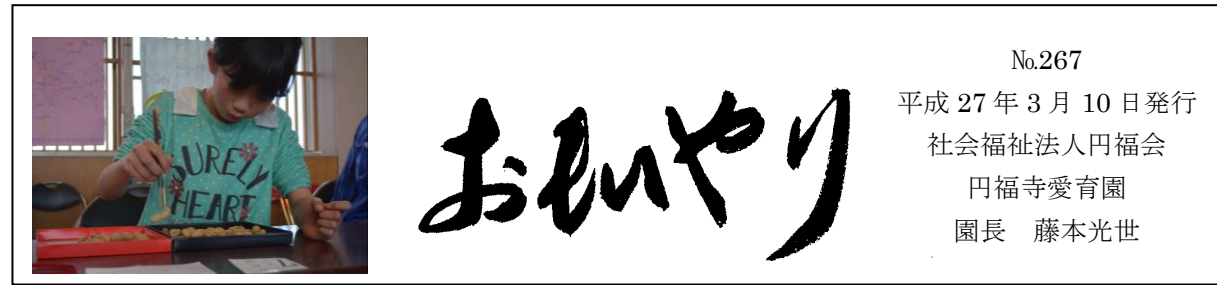


当園の第 5 回箸りんぴっく大会を開催しました。写真は昨年の箸ピーキングです。



第 5 回箸りんぴっく大会

園長 藤本光世

当園の第 5 回箸りんぴっく大会を 2 月 22 日に開催しました。当日はご来賓として、国際箸学会会長小宮山栄様と役員の方、西横田区長唐木康嘉さまや西横田区役員の皆さま、通明小学校永井教頭先生や子どもの担任の先生方をお招きして、約 90 名の皆さまの参加で、盛大にできました。

報道関係では、信濃毎日新聞と長野放送が来てくれました。翌日の信濃毎日新聞の第一社会面の「高原調」にその記事がカラー写真で掲載されました。

長野放送は、当園の「おもしろいやり」を読んでくださり、箸ピー大会の裏に子どもの心を育て、普段の生活を立派に過ごすこと

があることを知って、翌朝のおまいりや食事の様子も取材してくださり、6:15 からのスーパーニュースで 5 分間にわたって放映してくれました。とっても良い構成になっていて、取材視された方の誠意を感じました。感謝しています。

このように、当園の子育てが社会の皆さまに分かっていただくことは、大きなご支援になります。ありがとうございました。今月号は、箸りんぴっく大会特集です。

職員の成長

園長 藤本光世

児童を養育する仕事は、職員の力量を上げることが、最も重要です。

ところが、これが至難の業なのです。その理由は

1. この仕事は、知識より意識が重視されます。心が重視されると言っても良いでしょう。なぜなら、この仕事は子どもの意識や心を変える仕事ですから。ところが、意識を変える、心を変え

ることは、本当に難しい。意識や心にはその人のこれまでの成育歴が表れます。親からもらった DNA も表れます。だから、とても難しいのです。

すると、レベルの高い仕事になってくると、意識や心を変えようとせず、地が出て、自己流の仕事になるのです。それは、園の方針とは異なり、マイナスの仕事になる。仕事をやっていないどころか、他の人の仕事を増やしてしまうのです。あるいは園の職員の足を引っ張ることになる。

2. 仕事が見えない。

物を作る仕事だったら、できた物を見れば、良いか悪いかわかります。仕事が見えないので、なんとでも言える。数年前の引継ぎで「厳しく指導した」という報告が度々ありました。ところが「厳しく」指導したはずなのに、子どもが全く変わっていない。寝坊したり、朝食を食べなかつたり、学校を遅刻したり行かなかつたり、深夜徘徊があつたり、とやりたい放題でした。

「厳しく」とはなんだつたのでしょうか。青谷副園長は「そんな仕事でも、仕事をしたことになってしまうのですよ。」と、いい加減でレベルの低い仕事ぶりを教えてくれました。

意識や心を変えることは、年齢を重ねると難しくなります。「我」が出て、かえって園の方針を批判し攻撃するようになります。それで、当園の採用人事は、若い新卒を主としてきました。ここに、当園三年目の山口亮保育士が、地区連盟の冊子に寄稿した文を載せます。彼は松本短大を卒業して、今年で 3 年目になります。仕事ができなくて、何度も副園長に相談し、指導を受け、泣きながら自分を変えてきました。その一生懸命な姿勢が、指導の方向を同じにでき、自分を高めることにつながり、仕事ができるようになって来たと思っています。彼の体験から、児童養護施設で「仕事をする」とはどういうことであるか、ご理解ください。ただし、山口保育士には、ここに掲載されたことをもって、調子に乗らないように、それだけを注意しておきます。

我が社のセールスポイント

円福寺愛育園 保育士 山口 亮

円福寺愛育園では職員全員が①すぐにやる②必ずやる③できるまでやるをモットーに児童と関わっています。それを私の実際の体験談を通してお伝えしたいと思います。

私の担当児童に小学四年生の児童がいます。彼はある特性により、一度決めた事は曲げない性格があります。ある日に高校生の仕草を影で馬鹿にし、真似をし始めた所でトラブルは起きました。その真似をしている姿を気になった職員が注意をすると彼は一方的に怒られたと捉え機嫌が悪くなりました。職員が少し目を離れた隙に彼は玄関を開けて飛び出しました。彼は拗ねた時に抑えられるのを嫌い、止めに入った職員に暴れ暴言を吐き、30 分以上興奮状態が続きました。私もその場に居ましたが、彼を止めに入っているのは違う職員です。この円福寺愛育園の精神や考え方を自分が理解していればすぐに彼を止めに入れたらろうし、その後の指導にも入りやすかつたはずですが。それを理解したのは彼の興奮状態が収まり、眠りについた後のホーム主任との話し合いでした。いつもの私ならば、できないから他の職員に助けてもらう事が多く、ホーム主任に任せる事が多かつた



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

かもしれません。ホーム主任からは、「自分の力で最後までやってみなさい」と話があり、翌日から彼の指導を必ずやり通すと決意しました。

翌日、本児が帰ってくると前の日の事実を認めるために話をします。暴れてしまった事と職員の話素直に聞けなかった事で、この2点については迷惑をかけてしまった職員に謝らせたいと考えました。ただ注意をしているだけだと前の日のようにただ怒られたと捉えてしまい暴れてしまう為、最近彼ができるようになってきた事や頑張っている所から話しをし始めます。頑張っている事を誉められている内は機嫌がいいもので話をよく聞いていますが、昨日の問題に触れ始めると態度が一変します。「その話は絶対にしない」と言い始めてしまい、最終的にはその日の話しでは「自分を止めに入った職員が悪い」と話が何度も行ったり来たりしてしまっただけで、一度区切り、翌日にまた話をすると伝えその日は終わりました。指導は何日も続きました。数日が過ぎた頃、「この数日生活したけどモヤモヤして嫌だ」と彼が話してきました。そこからは彼が嫌だと思っただけの部分で聞き、自分が悪かった所を認める事ができ、職員に謝る事で、この問題を区切りをつけました。そこからの彼はどこかすっきりした表情で生活をし、それ以降問題となる行動は起こさなくなりました。

愛育園の職員はこのモットーを常に考えて行動をします。すぐやらなければ問題を起こした子は嫌な気持ちで生活をしなければいけません。必ず解決してあげる事でそこからまた気持ちを入れ替えて生活ができます。私もこの事例を通して学んだ事を生かし愛育園の職員の一員としてもっと力を出して頑張りたいと思います。

これまで、愛育園の職員研修は上記のように、実践の中で困難に当たり、叱られ、方法を教わってであり、本人のやる気や人間性に依るものでした。4月からは、計画的な職員研修を実施します。そして、職員の力量を高めます。

第5回 箸ピー大会

あおぞらホーム長 富沢正樹

1月31日の「国際箸オリンピック」に続いて、2月22日は園の「箸ピー大会」がありました。今年には誰が優勝するか、全くわからない、とても白熱した大会となりました。

毎年、児童達は一か月程の練習期間を経て大会に臨んでいるのですが、今年は、1月に行う予定だった箸ピー大会の時期にインフルエンザが流行ってしまっただけで、これでは、それまで頑張ってきた児童が力を出し切れない大会になってしまうと、大会を2月に延期し、結果、今年の練習は二か月間にも及びました。

練習期間が例年の倍あった事や、間に「国際箸オリンピック」があった事で、子ども達の「箸ピー大会」までの日々の中にたくさんの気づきがありました。

この行事はもともと、正しい箸の使い方や、箸という道具の便利さ学び、ひいては食への関心や感謝が高まって欲しいという願いを込めています。練習を通して、どうやったら記録が伸びるか自分で考え、工夫する。3歳の幼児さんから高校3年生まで楽しみながら、自然と箸の使い方が上達していきます。ただ、今大会はそれだけではなく、児童の「やる気」が過去4回の大会と違った気

(平成27年3月10日発行 月刊「円福」464号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

がします。今までの大会も、個人個人で、練習に励む姿がありました。けれど、やはり手先の器用な子や、コツをつかむのが早い子と、そうではない子とではやる気に差が出てしまっていました。大会の優勝者も大方予想できて、私自身も、なかなか記録を伸ばせないでいた子には「優勝よりも、自分の力を出し切ってやる事が大事だよ」とそんな声をよくかけていた様に思います。ただ、今大会は違いました。

間に「箸オリンピック」があり、園の選抜メンバーになるために、一生懸命に練習や日々の生活に励み、それでも惜しくも選抜メンバーに選ばれなかった子は「箸ピー大会こそ優勝する」と奮起し、それまで箸ピーにやる気を持てなかった子も、選抜メンバーの輝かしい成績と誇らしげな姿、また、帰ってきた時の「おめでとー」と皆にお祝いされている姿を目の当たりに「自分もそうなりたい」という気持ちから、そこから一気に上達しました。

さらに、練習期間が長くあった事で、後半からコツをつかみ急激に記録を伸ばす児童が続出しました。特に左手はなかなか上達まで根気が必要で、コツをつかむ前に大会当日が迫り、あきらめてしまう子が多かったのですが、たっぷり時間があつた事で、多くの子が好記録を出せるようになりました。

こうなってくると「優勝したい」と意欲的になる子が増え、さらにさらに練習に励みます。結果、誰が優勝するか全くわからない状態で大会当日を迎える事になりました。

大会当日、競技は個人戦・箸ピーキング決定戦・団体戦の3種目を行いました。箸ピーキング決定戦は、個人戦での成績上位8名が出場でき、このキング決定戦で優勝が決まるため、まずは上位8名に残る事を目指します。当日は、国際箸学会の皆さん、西横田の地区の方、通明小学校の先生をお招きしており、会場は緊張感に包まれておりました。児童もみんな緊張していましたが、競技となると集中して、いつもの力を発揮できていました。きっと緊張よりも、自信の方が大きかったのではないかと思います。



箸ピーキング決定戦は小学生・中学生・高校生からそれぞれ出る結果になりました。箸ピーキング決定戦は個人戦の記録は関係しない一回勝負です。つまり、個人戦8位でも、いくらでも優勝は狙えます。「スタート」の合図前、会場はシーンと静まり返り、緊張感に包まれました。合図の笛が鳴ると、指先に神経を集中させ、ものすごい勢いで落花生を運びます。結果、高校1年生の女の子が252個で優勝しました！2位・3位の子も230個台で、大接戦でした。



団体戦は、児童、職員、来賓の方々が入り混じって、4チームリレー方式で対決しました。50個の豆を運んだら、次の人に回して、先に全員が終わったチームの勝ちというルールで、大変盛り上がりしました。

その後も表彰式では優勝した子がうれし泣きしてしまったり、その後のお茶会で箸ピーの感想を話し合ったり、児童の良い表情を沢山見ることができました。

来年も、もっともっと良い行事にできるよう、児童達と日々の生活を送っていききたいと思います。

第5回箸ピー大会

主任保育士 石崎早織

2月22日、愛育園では第5回箸ピー大会が開催されました。「今年こそは優勝する！」という思いを持ち、子ども達はこの日の為に12月下旬から毎日練習を頑張ってきました。

練習ではその日の集中力によって、記録が相当変わります。いつもより一つでも記録が伸びれば喜び、伸びなければ悔しがり……。早く練習をしたいと宿題を頑張らせて終わらせる姿も多くありました。

大会前日。競技宣言を昨年度のチャンピオンでもある小学4年生のHさんをお願いをしました。人前で話す事が苦手で、とても恥ずかしがり屋のHさん。当日はたくさんの人たちの前で競技宣言をする為大丈夫かな？と心配していましたが、Hさんをお願いしたい事を伝えると快く引き受けてくれました。それから一緒に文章を考え、覚えるまで何回も何回も繰り返し練習しました。本番はとても緊張していましたが、堂々とみんなの前で発表することができ、本人もホッとしていました。競技ではそれぞれ練習の成果を出せていた子どもも多くいたように感じます。他の人が競技していればそれをみんな



で応援する。という姿もあり、とてもよい雰囲気の中で行う事ができました。中でも一番盛り上がったのは団体戦！幼児～大人までが混じり4つのチームを作り戦います。幼児さんの中にはまだうまく箸が使えない子どももいますが、一生懸命豆を運び、それをみんなで応援。結果私たちのチームは2位になる事が出来ました。また最後には茶話会も行い、大会の事を子どもたちと振り返ることができました。今年入賞出来なかった子どもは、来年は絶対入賞すると今から意気込んでいます。年々箸ピー大会もどんどんと大きくなり、子ども達のやる気も増してきています。子どもたちの一生懸命取り組んでいる姿が、今後たくさん見ればいいな……。と思います。



* 第5回箸ピー大会 *

調理主任 中澤希衣

本年度も愛育園で、第5回箸ピー大会が開催されました。今年は当初1月末を予定していた箸ピー大会ですが、インフルエンザの流行により1ヶ月先の2月22日に変更されました。練習を始めて約2ヶ月、毎日休まず子どもたちは練習に励んでいました。思うように記録が伸びなくて泣いてしまったり、頭を抱えている子や、1個でも多く記録を伸ばしたいあまり、ついズルをしてしまう子、前日より記録伸びたよ！今日最高記録出した！と嬉しそうに報告してくる子、この2ヶ月間さまざまなことがありました。毎年感じるのですが、子どもたちの集中力・精神力というのは果てしないものだと思います。普通なら毎日同じ練習ばかりしていれば途中で飽きてしまう子、適当になってしまう子が出てきてもおかしくないと思いますが、しかし愛育園の子は毎日練習しに食堂に通い、毎日新しい記録を出す、私はとてもすごいことではないかと思っています。ズルをしてしまうのは確かに良くないけれど、それは勝ちたいという気持ちが強いから、泣いてしまうのは悔しいと感じているから。こういう気持ちはすごく大切なことだと思います。そして、お箸は普段みんなが毎日使うものです。みんながお箸に関心を持ちそれが食育にもつながる、楽しい気持ちでお箸を使えるようになるのではないかなと思います。今年の箸ピー大会は昨年以上に盛り上がり、無事終わることができました。子どもの心が育つ箸ピー大会、来年も子どもたちの記録がどこまで伸びるか楽しみです。



箸ピー大会 児童感想

今日は、箸ピーの日です。

僕は、前日にかざり付けの大ピーナッツ君を作りました。小学生の女の子は小ピーナッツ君を作りました。そして、迎えた本番、僕の順番がきたのですが、緊張しすぎて、練習での最高記録は出せませんでした。悔しかったですが、頑張る事ができて良かったです。(小5 I.Y)

箸ピー大会のために、たくさん練習をしました。当日は、準備や片付けも一生懸命やりました。優勝できなかった事は残念だったけど、来年こそは優勝したいと思います(中3 Y.S)

普段、野球班の活動があり、なかなか練習に参加できなかったのですが、大会前日までに200個まで記録を伸ばせました。そして、当日、僕は今までにない222個という大記録を出せました。

キング決定戦に出られるかもしれないと思っていたのですが、3個差で出場できませんでした。この3個の差が日々努力している人と、ときどきしか練習出来なかった僕との差なんだと感じました。

努力する事が大切とあらためて実感できて良かったです。(高1 石山 智朗)

私は箸ピーの練習の時にズルをしてしまい、先生に注意されました。でもそこを注意されたおかげで個人戦では270個という今までの記録より約30個も多くお豆を運ぶ事が出来ました。キング決定戦では思いのほか緊張してしまい、いい記録が出ず残念ながら、上位3位にも入れませんでした。来年埼玉の全国大会にもいけるよう目標を立てました。①先生のお手伝いをしたりして生活をしっかりさせる。②絶対にズルをしない。ズルをしそうになったら自分で止める。③記録が伸びなくても拗ねたり怒ったり、人に八つ当たりしなし。④来年は一つでも多く記録が伸びるように頑張る。この4つの目標を出来るだけ達成できるように頑張ります。(小5 Aさん)

土日しか練習できなくて、なかなか記録が伸びなかった箸ピー。前日から準備と気合を入れてい

ました。今年は二百を超える人も多く、私はみんなにライバル心を燃やしていました。当日、箸ピー協会の方たちや地域の方も来てものすごく緊張しました。個人戦で2回記録を取った時、八位内に入っていたいと心から思いました。結果発表では一位で呼ばれた時は嬉しすぎて飛び上がりそうでした。キング戦の結果発表。3位の子からいきなり二百を超える数字だったので、自分が入っていないんじゃないかと思いましたが、252



個Mさんと私の名前が呼ばれ、飛び上がってしまいました。賞状には「優勝」と書かれていて、メダルにも書かれていて、トロフィーにも書かれていて本当に勝ったんだと思いました。みんなに「お

めでとう」と言われた時すごい嬉しい気持ちになりました。(高1 Mさん)

スキー行事

保育士 酒井悠紀

2月15日、今年も飯綱リゾートスキー場へ、小学校高学年以上の児童・職員で行って来ました。子ども達もこの日を迎えるまでに、ワクワクドキドキしながら生活をして来ました。いざスキー場へ足を運ぶと、、大雪です。そんな中、すぐに滑りはじめる子、なかなか1歩が踏み出せない子、様々です。小学生グループ、中学生グループ、高校生グループに子どもを分け、職員と一緒に行事が開始しました。今年からスキー教室に参加の4年生、おっかなびっくりのスキーです。滑れるようになるまで職員と猛特訓です。基本からひとつひとつ丁寧に教えていただき、数時間後には見事に滑れるようになり、リフトの上から小学生達の頑張りを



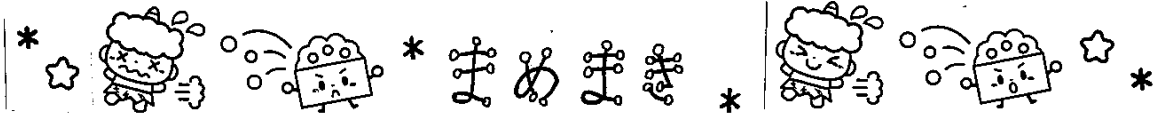
していると、とても嬉しく思いました。できない事に挑戦する姿が、何度転んでも頑張っている姿が、頼もしく見えたからです。そんな小学生に刺激を貰った私は、高校2年生のK君にマンツーマン指導です。このK君、ここ数年苦手なスキーを避け、小学校低学年と一緒にスケート行事に参加をしており、久しぶりのスキー行事なのです。行事前、嫌がるK君を何とか説得し、滑れるように

してやる!!と説得して、今日に至っています。今回の行事の、個人的な目的のひとつでした。K君は、最初の1本目で板を脱ぎ、歩いてコースを下ってくるほど、自信がなく、もうやりたくない、と本音を漏らしていました。しかし、行事の前に約束したことを胸に根気強く練習を始めるのでした。

キッズパークに2人入り、周りはおそらくみんな幼児。曲がる練習、止まる練習を何度も何度も繰り返し、ようやく滑れるようになり、K君から「初心者コースにもう1回挑戦する!!」と言葉が出て来ました。その表情はどこか自身を持っていました。一緒にリフト乗り場に行き、いざ滑り出すと、腰は引けて、表情も緊張していますが、確かに滑っています。初めてこんなに滑れた、来年もスキーやりたいなと嬉しそうに話してくれた笑顔がとても印象的でした。



苦手なことがあって、でも一生懸命練習したり、挑戦したり、そして出来るようになる。このときの大きな喜びをもっともっとたくさんの子どもに感じてほしいと思いました。



2月3日、節分の日には豆まきを行いました。当日までに“お面”や“豆入れ”を作り、自分の心や体の中にある鬼を追い出せるよう、かけ声の練習もしました。さあ、今年はどうな鬼がいるのでしょうか!? まずは談話室。「鬼は外! 福は内!」元気な声が響き渡りました。すると突然、目の前に赤い顔のおこりんぼ鬼が現れ、子どもたちは大慌て。保育者の陰に隠れたり、逃げ回ったりしながらも、年長さんを筆頭に必死で豆をまくと、鬼は逃げていきました。しかし、まだまだ鬼はいます。食堂では黄色い顔の好き嫌い鬼、体育館では、青い顔と黒い顔のいじわる鬼。加えて先程の赤鬼・黄色鬼もやってきて、もう大変!! 子どもたちは一生懸命豆を投げ、最後に鬼たちとお約束をしたようです。翌日からお話をしっかり聞く姿、お友だちと仲良く遊ぶ姿が増えていたのは、そのお約束のおかげかな? 鬼を追い払った後は、みんなで年の数だけ豆を食べ、一年の無病息災を願いました。



2月9日(月)、飯網リゾートスキー場へ、そりあそびに行きました。スキーウェアを着て、安全に遊ぶ為のお約束を確認し、出発! スキー場が近付くにつれ、積雪が増えていく様子に期待が高まる子どもたち。到着して最初のうちは保育者と二人で滑っていましたが、慣れてくると一人で滑ることに挑戦です! 何度も転んで嫌になりそうだった子も諦めずに頑張りました。中には、雪の上をゴロゴロと転がったり、雪合戦をしたりする子も... 雪山を満喫した楽しい一日となりました♪



2月生まれのお誕生会をしました!

～スタンプラリー編: みんなで協力してスタンプをGETしよう!～

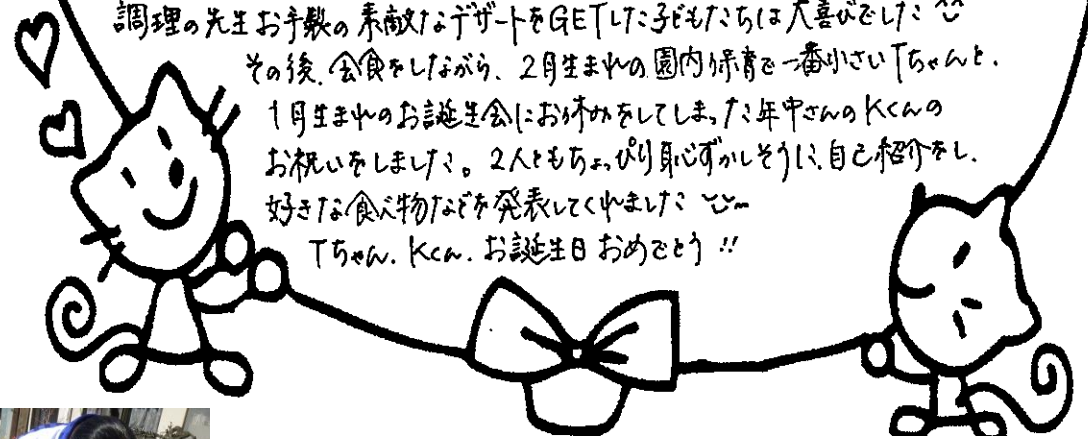
2/16(月)、2月生まれのおともだちのお誕生会をしました。今年度の園内保育には3月生まれのともだちがいいため、今年度最後のお誕生会とさせていただきます。お楽しみは、スタンプラリー!! 9名の幼児さんを3つのチームに分け、それぞれのチームに年長さん、年中さんまたは年少さん、未満さんが入るようになっています。

10ヶ所のポイントには、①ツムツムゲーム(さまざまな大きさの箱を積み重ねる)、②光をキャッチ!(先生の投げたボールを打つ)、③折り紙制作など、1つずつ課題が設定されています。さあ、子どもたちだけで構成されたチームで、各ポイントをクリアできるでしょうか!? 保育者たちの心をよそに、未満さんを気遣いながら、1つずつ課題をクリアしていく子どもたち。スタンプラリーの姿を通して、一人一人の成長をみることもできました。

最後のポイントでクイズ(正解すると、ごほうびのボールをもらえ、すべてのポイントをクリアして、調理の先生お手製の素敵なデザートGET!!)に子どもたちは大喜びでした。

その後、会食をしながら、2月生まれの園内保育を一番小さい「ちゅん」と、

1月生まれの誕生会にお付き合いしていただいた年中さんのKcwnのお祝いをしました。2人ともあがり身じぶんらしく、自己紹介をし、好きな食べ物などを発表してくれました。ちゅん、ちゅん、Kcwn、お誕生日おめでとう!!



豆まきの鬼になって

あおぞらホーム 近藤 典雄

二月三日の節分の日、今年も豆まきの季節がやってきました。幼児さんも節分に備えて準備万端です。今年も去年登場した赤鬼、青鬼、黄鬼、に加えて黒鬼と四人の鬼が登場しました。



幼児さんは、談話室に集まってきて園内保育の先生と一緒に豆まきの練習をしています。「鬼は～外」「福は～内」元気な声が園内に響きます。ついに鬼の登場です。元気な声は一斉に悲鳴に変わります。談話室、食堂と豆まきを終えた幼児さんたちが体育館にやってきました。体育館に来るころには幼児さんたちは

すでに泣いている子や先生にギュッと捕まって離れようとしないう子もいました。三回ほど「鬼は～外」「福は～内」と声を合わせて豆をまきます。ここで青鬼が出てきて一気に悲鳴に変わります。しばらくすると他の鬼たちも体育館に集まってきて、体育館の中はさらに大混乱、鬼に囲まれながらも豆で退治する子、逃げ惑う子、泣きながら豆をまく子や園内保育の先生の背中に隠れる子さまざまでした。しばらくして鬼が退散します。

鬼になった先生たちも、いつものかっこに戻って幼児さんたちに豆まきの様子を聞くと「鬼が出てきたんだよ」「鬼を退治したよ」「黒鬼も出てきたよ」と反応はさまざまでした。今年も一年園にいる子が元気一杯に過ごせることと思います。

スケートにいつてきました！

あおぞらホーム 山口 亮

2月21日にエムウェーブのスケート無料開放日に小学校低学年さん達と行って来ました。少し前に小学校のスケート行事で体験をしているので小学生のみんなは体験した事がありました。私自身スケートは初めてで全くの未経験でした。小3のHくんがリーダーとなってみんなをまとめていると、駐車場の警備員さんに向かって「こんにちは」と大きな声で挨拶をしている姿がありました、小1の男の子2人もちょっと遅れる形で挨拶をしていましたが、その後は通り過ぎる人たちにしっかりと挨拶をして会場に入りました。

中は無料開放日とあって人がたくさんいました。Hくんは3年間やっている成果もあって一人でもスイスイと滑っています。小1のある男の子は、体調を崩してしまって学校のスケート行事には参加していなかったものの初めてとは思えないほどすぐに滑れるようになり、一人で進んでいきます。女の子も中には恐る恐る滑っている子も居ましたが、職員と一緒に滑る事で時間とともに上達が目に見えていました。私も一緒にと滑ってはいましたが、転んでばかりで小3のHくん「こうやってハの字でやらないから転ぶんだよ～」と逆に教えてもらう結果になりはしましたが、終わる頃にはみんなぐったり。思い切り遊んで帰ってくる事ができました。

バレンタインチョコ作り

調理主任 中澤希衣

2月といえばバレンタインデー。今年もまごころの女の子たちはバレンタインのチョコ作りを食堂で行いました。今年も11日が祝日でお休みなので、少し早いですがチョコ作りをしました。下は年長さんから上は高校まで、高校生は事前に調理の先生と何を作るか相談し、一人でチョコ作りに挑戦します。いつも調理をしない小学生も、この日は自分でお菓子を作るのでとても楽しそうにしていました。自分の担当の先生にあげる子や、お友達と交換する子、いろいろな気持ちを抱えながら作ります。生チョコを作ったりケーキを焼いたり、アップルパイを作ったり、みんな調理の先生に手伝ってもらいながらおいしく作ることができました。中にはオーブンに入れてるのを忘れて少し焦げてしまったり... 笑。いつもはやんちゃな女の子たちですが、かわいい一面がたくさんみえた、そんなバレンタインチョコ作りでした。

あおぞらホームだより

保育士 石黒玄章

立春が過ぎ、春の足音は確実に聞こえて来ました。先月は半数以上の子どもがインフルエンザに感染しホームの中も慌しかったものの、2月に入り子ども達は風邪もひかず元気に学校に通っています。2月はスキー教室や、スケート教室、箸ピー大会など行事が目白押しで、行事を通じた子ども達の成長を著しく感じます。現在あおぞらホームの小学生はNOテレビ・NOゲームDayが火・木・土曜日に設けられています。昨年までは週1日でしたが、今年度より週3日になりました。当初は不満を言う子どもも多く時間を持て余す様子が目に付きましたが、最近は、各自が野球やバスケや絵を描いたり、将棋やカードゲームをしたりと、自主的に取り組むように成りました。幼い頃からゲームやテレビに流されること無く、自分の力で楽しみを見つける姿は、大人の我々も気付かされる事も多く、成長の姿を感じます。あおぞらホームでは来月4人の子どもが卒園します。皆で残りわずかな時間を有意義に過ごし、最高の卒園式で送り出してあげたいと思います。

まごころホームだより

保育士 竹田悠希

風の冷たさが少しずつ和らぎ、卒園シーズンとなって来ました。さて、先週行われた箸ピー大会にお越し下さった来賓の皆様ありがとうございました。子どもたち一人一人の一生懸命な様子がたくさん見られたことと思います。また先日には箸ピーの様子が新聞に掲載されたり、TVの情報番組でとりあげていたり、子どもたちも真剣にTVを見ていました。大会で記録が伸びた子も伸びなかった子も、今回の行事で、一つのものに対し真剣なまなざしで取り組む力がついたと思います。小さい幼児さんでは、箸を正しく持つということが力になり、今後も継続して持てるようにしていけたらとおもいます。今年度も残りわずかとなりますが、大きい子は特に気持ちを切り替え、個々の将来の夢であったり、学習に対して前向きな姿勢で春休みを迎えられるように支援していきたいと思っています。最後となりますが、天候の面で暖かかったり寒かったりと体調管理が難しくなってきましたので、子どもたちの健康管理には日々注意して見ていくよう、心掛けていきたいと思っています。